



「幼さ」や「あどけなさ」は人間も動物も同じ。愛おしく感じますね



小山市の小学校で撮影

### 避暑対策

いよいよ本格的な暑さがやってきました。毎年の事ではありますが、学校の動物たちは暑熱ストレスにより弱り、老齢動物は死亡することもあります。しっかりと避暑のための対策をとってください。

農業用の遮光ネットやグリーンカーテン、葦簀（よしず）が効果的です。最も大切なことは、「飲み水が充分にあること」ですので、飲み水が充分にあるかの確認をしてください。エサやりの時に、飲み水の入れ物が空っぽになっているようであれば足りていない証拠です。水入れの器を大きいものに変えたり、水入れの器の数を増やしたりして、対策をとってください。

暑熱避暑対策の詳細は、ニュースレターバックナンバー（[資料特集号：暑熱対策編](#)）を参考にしてください。



主催：全国学校飼育動物研究会（会長：成田太郎）  
 事務局：千葉県動物福祉推進500 筑波大学附属動物センター 畜産研究部  
**平成28年8月28日（日）13時～17時**（受付12:30～）  
 東京大学弥生講堂一系ホール（東京都文京区弥生1-1-1）（東京大学農学部内）

特別講演  
**ひとと動物の絆の心理学**  
 大手前大学現代社会学部准教授 中島由佳

日程  
 12:30 受付開始・開場  
 13:00 開会挨拶  
 13:20 特別講演  
 14:30 自由報告  
 15:00 パネル発表・動物ふれあい  
 16:30 閉会  
 16:45 全国学校飼育動物研究会総会  
 17:00 終了

※講演は各自の時間・場所で行われ、講演終了後は各自の学校で対応してください。講演会場は、本会事務局が主催するものではありません。講演料は、各自の学校で対応してください。講演料は、各自の学校で対応してください。講演料は、各自の学校で対応してください。

### 全国学校飼育動物研究大会のご案内：

今年も、全国学校飼育動物研究大会が開催されます。教育現場でも役立つ発表が聞けることと思いますので、是非、ご参加ください。

第18回全国学校飼育動物研究大会 主催：全国学校飼育動物研究会

日時：平成28年8月28日（日） 13時～17時（受付開始12：30～）

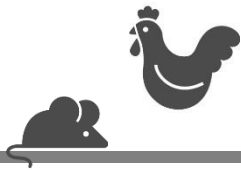
会場：東京大学 弥生講堂一条ホール 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内

大会テーマ 「命の大切さを実感する学校飼育動物」

特別講演 中島 由佳先生「ひとと動物の絆の心理学」（大手前大学現代社会学部准教授）

口頭発表

- 1) 「動物飼育で育つ子供の資質・能力」鷲見辰美（筑波大学附属小学校）
- 2) 「動物介在教育の普及について-農業高校の挑戦-」3年:石谷紗也,伊藤由莉奈,吉村淳輝, 2年:竹位早純,齊藤あみ,指導教員:藤田和久（大阪府立農芸高等学校資源動物科）
- 3) 「学校指定獣医師制度について」阿部温（群馬県獣医師会）
- 4) 「本校におけるモルモット飼育の実践報告」松尾哲志, 山崎愛理沙（練馬区立豊溪小学校）



## 根拠に基づく動物飼育

### 悲しみの4steps

動物との死別のみならず、人の死別や大事にしていた“物”を無くしたときも、多かれ少なかれ人の心が「喪失感」を抱くことはごく普通のことです。大き過ぎる喪失感とは、心が修復したい状態に陥ることがあります。一般的に「ロス（＝喪失）」と呼ばれる状態がこれに相当します。学校での動物飼育において、その対応が一番難しいのは「大切にしていた動物を失う」という出来事です。子供たちの心に傷を残さないためにも、命をみつめ、命を大切に生きて学ぶ機会とらえて対処されますことを望みます。



#### Step 1：心の麻痺

大きな情動の変化に心を麻痺させることで対応しようとする正常な対応。現実や情報の把握、判断ができない段階。

#### Step 2：深索と切望

失ったものを取り返そうとする試み。注意力、五感を最大限に高めて失ったものの存在を感じようとする段階。

#### Step 3：混乱と絶望

失ったものを取り戻せないことを確認したことへの反応。全体的な抑うつ症状、食欲や意欲の低下、不眠などが長く続く段階。

#### Step 4：回復と再編

アイデンティティー、外界把握の見直しと再編。少しずつ変化を受け入れ、活力が戻り、社会性が向上する段階。

[グリーンサイバー（グリーフケア、グリーフワークの総合サイト）](#)より引用



**動物飼育での悲しみケアには「気持ちを共有、共感すること」や「他人の悲しみを知り、思いやること」の意味合いがあります**

これらのステップを経ていく過程において、人間の場合では儀式が一つの助けになります。仏教では、通夜、葬儀、初七日、四十九日などの儀式が執り行われていくことで、ステップを経ることが出来るのかもしれませんが、そういった意味合いで、学校で飼育されている動物の死に対しても、一つの形（儀式）を執り行うのは良いことだと考えます。また、儀式では、儀式に参列した人たちと悲しみを共有することができます。多くの人と共有することで、心の負担は軽減することでしょう。

お別れの会、思い出展など、色々な形を工夫されてみてはいかがでしょうか。（「命のはなし」（スライド説明用）も参考にしてください。）

また、亡骸は火葬し、お骨を校庭内の一角に埋葬すると良いでしょう。目に触れない、子供たちが分からない場所に密かに埋葬することも多く見受けられますが、しっかりと埋葬して、供養していること（粗雑に取り扱っていないこと）を知ってもらうためにも、更には、悲しんでいる子供の拠り所としても埋葬場所をはっきりしておくことが有意義かと考えます。





2016 7

19



® × ÓÔ \ ¿ "



Â Ì A \ ü  
 Õ ± \ Á Ð \ Ê \ ¿ \ ®"